

プチパピ 図書館だより

2020
5月号



図書館報『パピルス』のプチ版ということでプチパピです

磐城桜が丘高等学校図書館・図書委員会発行

新型コロナの影響で、通常通りの高校生活が難しい日々が続いています。臨時休校中には何冊本を読めたでしょうか？ 図書館も感染症対策をしつつ開館しています。来館をお待ちしています♪

図書委員 オススの本

『そして誰もいなくなった』

アガサ・クリスティ／早川書房

本好きなら知っている人もいないのではないのでしょうか。童謡の歌詞になぞらえて人が殺される「見立て殺人」。あなたはこのトリックを見破れますか？

(3年・男子)

『ジョーカー・ゲーム』

柳広司／角川文庫

太平洋戦争中の陸軍内に作られたスパイ養成学校が舞台です。

軍の思想に染まった佐久間と狡猾なスパイ候補生たちとのやりとりが面白いし、スパイ活動のドキドキも読んでいて楽しいです。

(3年・女子)

『僕は奇跡しか起こせない』

田丸久深／宝島社文庫

紗絵の前に現れたのは十歳で死んだ真広だった。真広は「キセキ」として「奇跡」を起こしていく。真広が最後に起こす「奇跡」に感動しました。紗絵と真広のラブストーリーにも注目です。

(2年・女子)

おらせ

『空想科学図書館通信』の掲示を始めました！

マンガやアニメなどの空想の世界で描かれる現象を科学的に検証した内容で、学校図書館向けに毎週月曜日に配信されています。図書館付近の掲示板をご覧ください。

『図工準備室の窓から』

岡田淳／偕成社

『ムンジャクンジュは毛虫じゃない』、『二分間の冒険』など、少年少女たちを主人公に据えた物語で知られる小説家の岡田淳は、小学校の図工の先生でもあった。自らの本の挿絵も手がける岡田淳さんの、ささやかだけどあたたかな、子どもたちや他の先生たちとの日常を綴ったエッセイです。ところどころにちりばめられた岡田淳さんの簡単な線のイラストやカラー扉絵で紹介される子どもたちの図工作品に、「こんな先生がいてほしかった……！」と唸ること間違いなし！

(3年・女子)

『怖いへんないきものの絵』

中野京子 早川いくを／幻冬舎

絵画にはどこか怖くて奇妙ないきものが出てくる。どうして彼らは登場したのか？画家は何を考えてこんなものを描いたのか？

早川いくを先生の尽きぬ疑問を、「怖い絵」シリーズで知られる中野京子先生が解決していきます。絵画の世界は奥が深い。

(3年・男子)

『今昔百鬼拾遺 鬼』

京極夏彦／講談社タイガ

「昭和の辻斬り事件」その七人目の被害者、片倉ハル子の友人である呉美由紀から相談を受けた中善寺敦子が事件解明に乗り出す、ドキドキする推理小説です。

(2年・女子)



裏面は新着図書案内⇒

